

1 研究主題

ライフ

キャリア

研究主題

命を大切にする心を持ち、生き方を創る子どもの育成
～人と自然とのかかわりを大切にした道徳学習プログラムの創造～

2 研究の概要

本校は、平成17・18年度、文部科学省の委嘱事業「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業 - 命を大切にする心を育む教育の推進に関する研究」の指定のもと「命を大切にする心を持ち、生き方を創る子どもの育成」を目指している。初年度は「総合単元的な道徳学習」を核にすえ、「ライフ（命を大切にする心）」「キャリア（よりよく生きようとする心）」という二つの言葉をキーワードに道徳の授業の充実や体験活動との効果的なつながりを工夫するといった取組みを行った。そして、本年度はこれまでの「総合単元的な道徳学習」を「道徳学習プログラム」と設定し直し、より一層体験活動を重視した「ライフタイム」の導入や児童の変容の評価方法を工夫するなど、効果的で有機的なつながりを持つ道徳教育のあり方を研究している。

3 心に響く道徳の授業「ベスト3」

水の妖精

子どもが積極的に発言し、みんなで考えを深めることができる授業



悪い妖精を説得して水は大切ってことを教えてやろう！

学年 第3学年 29名
 主題名 水を大切に 3 - (1) 自然愛護
 【関連項目1 - (1) 節度・節制】
 ねらい 水を使うときの何気ない行動が自然環境に悪影響を与えていることに気づかせ、水や身の回りの自然を大切にしていこうとする心情を育てる。
 出典 本地小学校自作資料

私が生まれたときのお父さんの気持ちを聞いてみたいです。



命の一滴

命の重さ・尊さを感じることができる授業

学年 第5学年 28名
 主題名 大切な命 3 - (2)
 ねらい 日本で初の骨髄移植の提供者となった男性の行動を通して、命の重みについて考え自他の命を大切にしていこうとする心情を養う。
 出典 本地小学校自作資料

誕生日

参観日に実施することで保護者と一緒に考えることができる授業

学年 第6学年 27名
 主題名 家族の愛情の中で 4 - (5)
 ねらい 資料を通して、誕生する命を家族が待ちわびていたことを再認識し、自分の命のかけがえのなさや家族の愛情の深さに気づかせ自他の命を尊重しようとする心情を育てる。
 出典 本地小学校自作資料

実践例①

第3学年 道徳学習指導案 (略案)

- 1 日時 平成15年7月4日(金) 第3校時
- 2 学年 第3学年 29名
- 3 主題名 水を大切に 3-(1)自然愛護 【関連項目1-(1)節度・節制】
- 4 資料名 「水の妖精」 (自作資料)
- 5 本時のねらい
 水を使う場面での自分たちの何気ない行動が、自然環境に悪影響を与えていることに気づかせ、水や身の周りの自然を大切にしていこうとする心情を育てる。
- 6 準備物 VTR スクリーン 絵図 ワークシート
- 7 学習指導過程

階段	学習活動	主な発問(○と◎) 予想される児童の反応	指導上の留意点(☆) 評価の観点(★)
導入 分 2	1 身の回りにある大切なものを思い出おこす。	○毎日使う、なくてはならないものは何だろう。 ・教科書 ・えんぴつ ・食べ物 ・空気 ・お金	☆リラックスした雰囲気を作ると共に資料への興味を高める。
展開前半 30分	2 資料「水の妖精」前半部分を聞いて考える。 3 資料「水の妖精」後半を聞いて、なぜ水を大切にしないといけないか考える。	○たかしくんは何かいけないことをしたようだね。どこがいけなかったのだろう。 休憩時間 ・いっぱい遊んでいた。 ・水道をきちんとしめていなかった。 給食時間 ・きちんと牛乳を飲んでいなかった。 ・水道に残った牛乳を流してしまった。 寝る前 ・歯を磨くときに水が出しっぱなしだった。 ◎もう一人の妖精を説得しよう。 ・水道をひねったら出てくるからといっていくらでも使ったらいというわけではない。 ・水に汚いものを流していくと水が汚れる。 ・水が汚れると川が汚れてしまう。 ・川が汚れると地球が汚れてしまう。 ・出しっぱなしにすると水がなくなるかもしれない。 ・水がなくなってしまうと生活に困る。	☆イラストを使いながら場面を分かりやすく伝える。 ☆場面ごとにどこがいけなかったのかを明らかにし、水を大切にしていなかったことに気づかせる。 ★主人公のとした行動が水を大切にしていないことを理解しているか。 ☆ワークシートに書かせることによって一人一人が自分の意見を持つことができるようにする。 ☆もう一人の妖精を登場させ、説得する場面を設定することで考えを深めることができるようにする。 ★なぜ水を大切にしないといけないか考えることができているか。

	<p>4 現在の地球の水を取り巻く環境について知る。</p>	<p>○地球の水について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 50年後には世界の人の100人に70人が、水が足りなくて苦しむ。 ・ 日本はとても水が豊かに思えるが、実は一人が使える量は世界で180ヶ国中106位である。 ・ 川の水を一番汚しているのは工場や田んぼの水でなく家庭の水であり、その中では台所の水が一番である。 ・ 一人当たり毎日200Lもの水を使っている。 ・ ホタルのいる川が汚れて、少なくなっている。(生活廃水の写真) ・ 人間の体の半分以上は水でできている。水を汚すことは自分を汚すことである。 	<p>☆水について知らせていきながらもこの問題が一人一人にかかわっていることを意識させるような声かけを行う。</p> <p>☆クイズの形式をとったり、図や資料を見せたりするなど提示の仕方を工夫する。</p> <p>★水の大切さに気がつくことができたか。</p>
<p>展開後半 10分</p>	<p>5 自分の生活の様子をふりかえる。</p>	<p>○学習の振り返りをかこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これから水を大切にしたい。 ・ 水の無駄遣いをなくしていきたい。 ・ きれいな地球を守っていきたい。 	<p>★自分なりの感想をもち、1時間を振り返っているか。</p>
<p>終末 3分</p>	<p>6 説話を聞く。</p>	<p>○美しい水のある風景を見てみよう。</p>	<p>☆水の美しさを感じるができるようなビデオを写しながら、この美しい水を守ることは自分たちの生活の中にあることを話す。</p>

水の妖精

ぼくは元気な小学校三年生、今日も一日がんばったよ。さあ、ぐっすり眠ろう。でも、今日はいつもとちょっと違うところがあった。なんだか誰かにずっと見られているような気がしたんだ。まあ、いいか。よーし、明日もがんばろう。

はっと、気がつくとも僕目の前に水の精（**良い妖精**）がいた。この妖精はとっても怖い顔をしてこう言った。

「おい、君い。僕は水の精だ。君は今日大変なことをしたぞ！」

「ええ？僕は何にもしていないよ。」

「今日の一日を振り返ってみろよ。」

一日の生活の様子

1・2時間目が終わってやっと休憩だ。急いでグラウンドに出ると友だちと一緒にサッカーをしたんだ。もうすぐ授業だ。のどが渴いたので水道で水を飲んで教室に帰ったよ。（蛇口を閉めずにぼたぼた）

給食の時間

早くごはんを食べ終わったよ。今日は大好きな給食だった早く遊びたいから水道に行ったんだ。牛乳がちょっぴり残っていたけど、ちょっとくらいならいいか。きれいに牛乳パックを水道で洗ったよ。（白く濁った水が水道に流れていく）

夜の歯磨き

今日も一日楽しかった。ぐっすり眠ろう。でもその前に歯磨きしないとなあ。（歯をみがいているときも水は流しっぱなし）

「どうだい、君の一日は」

～主人公の一日をふりかえって話し合う。～

ああ、そうかと反省する僕の前に、突然もう一人の水の妖精（**悪い妖精**）が現れた。「お前まだそんなことを言って歩いているのか。君は何を反省しているんだい。どうしてだよ。今のままでいいじゃないか。水は蛇口をひねったら出てくるし、汚れた水はちゃんと流しに流れていくんだよ。」

どっちのいうことが正しいんだろう。しばらく僕は考えた。でも、やっぱり最初の妖精の方が正しいと思う。よし、後から出てきた妖精を説得してやろう。

～指導者（悪い妖精）と子ども達の討論をはさむ。～

僕が一生懸命説明したので後から来た妖精も納得してくれた。

最初の妖精はうれしそうな顔をして

「ありがとう。じゃあこれからも水を大切にしてくれよ。」

と言った。

そうすると二人の妖精は窓から飛び立っていった。あれ？あの二人とてもなかがいいぞ……。そうか、僕のためにわざとあんなことをしたんだ……。

はっと気がつくとも朝だった。窓から日がさしていた。夢だったのかな……。でも窓には水滴がいくつもついていたんだ。

※ 本資料の著作権は、本地小学校及び作成者の職員に属しています。無断での転載はお断りします。
（授業での使用、本地小学校の資料であることを明記した上で配布して頂くことは結構です。）

実践例②

第6学年 道徳学習指導案（略案）

- 1 日時 平成18年6月12日（月） 第5校時
- 2 学年 第6学年 27名
- 3 主題名 家族の愛情の中で 4－（5） 家族愛
- 4 資料名 「カレーライスその後」（自作資料）
- 5 本時のねらい

資料を通して、誕生する命を家族が待ちわびていたことを再認識し、自分の命のかけがえのなさ
と家族の愛情の深さに気がつかせ自他の命を尊重しようとする心情を育てる。

- 6 準備物 スクリーン、プロジェクター、ワークシート
- 7 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問（○，◎） 予想される児童の反応	指導上の留意点（☆） 評価の観点（★）
導入 2分	1 身の回りの様子について考える。	○大きくなったなあってどんなときに感じますか？ ・遊んでいるとき ・寝ているとき ・家族といるとき ・一年生のお世話をしているとき。 ○皆さんは、一人前・子どものどちらだと思えますか？	☆自由に意見を出させ、雰囲気づくりをするとともに、本時への方向づけをする。
展開 前半 30分	2 資料を聞いて話し合う。	○僕がおなかにいるという知らせを聞いた時、おうちの人たちはどんな気持ちだったのだろう。 ・子どもができるってうれしいなあ。 ・元気に生まれてほしいなあ。 ○おうちの人たちはおなかの僕にどんなことをいっていたのかな？ ・元気に生まれてきてね。 ・待っているからね。 ・出てきたら一緒に遊ぼうな ◎おうちの人たちは僕が生まれてきたときどんなことを思っていたのかな？ ・やっと生まれてきたよ。 ・僕の子はかわいいなあ ・なんてかわいいんだろう。 ・元気で生まれてきてくれてうれしいよ。 ・素敵なことだなあ。	☆役割分担をしながら資料を読む。 ★資料の内容を理解しているか。 ☆ワークシートを通しておうちの人の気持ちについて考える。 ☆ワークシートを書く時間を十分とり家族の様子を考えながら書く。 ☆保護者の気持ちも語ってもらおう。 ★おうちの人々の気持ちについて考えることができていたか。
		<p>※この後、参観に来ていたおうちの方に自分の子どもが生まれたときの気持ちを話してもらおう。</p>	

		<p>○自分がこの赤ちゃんだとします。もし言葉が話せるとしたらどんなことをいいたいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 待っていてくれてありがとう。 ・ かわいがってね。 ・ いろいろなことを勉強するよ。 ・ ぼくをうんでくれてありがとうね。 ・ しっかり生きていくよ。 	<p>☆自分の姿を登場人物に重ね合わせて心情を話させるようにする。</p>
展 開 後 半 1 0 分	3 登場人物への感想を交流する。	○今日学習をして感じたことをふりかえってみましょう。	<p>☆机間指導を行い、書きあぐねている児童には、自分のこれまでの様子と比べさせながら、自分はどうかありたいかという視点を持って書くように声をかける。</p> <p>★主人公たちの生き方に共感し自分をふり返ることができたか。</p>
終 末 3 分	4 ビデオを見て一時間のふりかえりをする。	○このスライドをみましょう。	☆自分たちの命の尊さを感じさせるスライドショーを見せる。

8 資料

「誕生日」

お父さんとはあれから少し仲良くなったような気がする。

だがお父さんもお母さんも、僕のことを本当に分かってくれているのだろうかという気さえする時だっている。この前だってこんなことがあった。

僕がもういいって言ってんのに、風邪を引くからこの服は着るなどか、この道はあぶないから通っちゃいけないとか……。ぼくのことにはまだまだ子どもあつかいさ。

いったいお父さんはどんな子どもだったのか、僕は隣町に住むおじいちゃんの家に向かったんだ。

「じいちゃん、こんにちは！」

「おお。どうしたどうした。こんなに汗をかいて、暑かったろう。さあ、おあがんなさい。」

座敷に上がると冷蔵庫からアイスをもっておいじいちゃんがやってきてくれた。

「さて、今日はどうしたのかね？」

「うん、お父さんのことなんだ。お父さんはいったいどんな子だったの？」

「ほうほう、いったいどうしたんだい？」

「お父さんは、僕のことをずっと子ども扱いするんだ。」

「ほうほう、それがどうかしたのかい？」

「お父さんはいったいどんな子だったのか知りたくってさ。ねえじいちゃん教えてよ。」

「ああ、いいとも。まず、言うことを聞かないやつだったなあ。6年生ぐらいから生意気になってなあ。

とにかく腕白なやつだったなあ」

それじゃあ、僕と一緒にじゃないか！家に帰ったら絶対に言ってやろうと心の中で誓った。

「しかし、まあ、お前が自分の子どもだからいうんだろうなあ。あれやこれやと……。」

この納得いかない話に僕は大きな声でこういった。

「なんで！そんなのおかしいじゃない。」

「ほお、お前。自分が生まれるときのことお父さんやお母さんからきいとらんのか？」

「なにかあったの？」

急に胸かどきんとした。

じいちゃんは、お茶をすすると僕が生まれてくる時、いや、生まれてくるまでの話を始めた。

「お前がお母さんのおなかの中にいることが分かったとき。お前の父さんはそれまで大好きだったタバコやお酒をぱったりとやめたんだ。そしてそれだけじゃない。本屋に走り、たくさん名前をつけるための本を買い始めたのさ。母さんは母さんで一生懸命手芸を始めたんだ。あかちゃんを包む、真っ白な布をていねいにていねいにぬってたなあ。まだ、お前が男の子か女の子か分からんときからの。」

そこへばあちゃんが突然割り込んできた。

「何を言ってるの、あなたも一緒にでしょ。この子がお母さんのおなかの中にいるって聞いたらうれしくなってべろんべろんに酔っ払っちゃって」

「そうだっけかなあ。わっははは」

(発問「僕がおなかにいるという知らせを聞いた時、おうちの人たちはどんな気持ちだったのだろう。）」

「しかしなあ、4ヶ月たった頃かな。途中でお母さんが仕事しているとき急に倒れちまってなあ。おなかのなかのお前の命が危なくなることがあるんだ。」

「そうそう、あの時父さんはずっと病院にいて母さんの手を握っていたんだよ。」

僕は初めて聞いた事に少し驚いた。お父さんがそんなことをしていたなんて。

「それから、お前がお母さんのおなかを蹴る頃、父さんもお母さんも一生懸命お前に話しかけていたんだよ。」

なんだ、なんだ、僕はそんなことちっとも聞いちゃいない。もちろんだが覚えてさえいないんだ。いったいなんで話しかけていたんだろう。

(ここで、発問「おうちの人たちはおなかの僕にどんなことをいていたのかな?」)

「お前が生まれてきた日のことは今でも覚えているよ。」とじいちゃんにはやりとしながらいった。

「そうね、親戚の人がたくさん来ていたわ。」ばあちゃんも笑って話した。

「分娩室の外で待っていたとき、お前の元気な声が聞こえてきたんだ。」

「みんな、あなたを見たときすごくうれしい顔をしたんだよ。」

「そういやあ、お前の父さんと母さんは泣いていたなあ。」

「おうおう。お前はにっこり笑っているように見えたぞ。」

僕もなんだかうれしくなって笑っていた。

(発問「おうちの人たちは僕が生まれてきたときに、どんなことを思っていたのかな?」)

(発問「もし、あかちゃんの僕が話せたらどんなことをいうだろうね。」)

じいちゃんの家に行った目的はなんだっけ?すっかり目的を忘れてしまった僕はにこにこしながら家への坂道を歩いていった。坂道の上から同じクラスのひろみちゃんとおかあさんが歩いてきた。きっとあのお母さんも僕のお母さんと同じ気持ちだったんだろうと思うと、少しうれしいような不思議な気がした。その瞬間、僕のことを何でお父さんがうるさく言うのか分かったような気がしてはっとした。

※ 本資料の著作権は、本地小学校及び作成者の職員に属しています。無断での転載はお断りします。
(授業での使用、本地小学校の資料であることを明記した上で配布して頂くことは結構です。)

道徳実践例
〈特別編〉命を大切にし、
将来に夢をもつ子どもの育成
—総合单元的な道徳学習における、
授業展開の工夫について—広島県北広島町立本地小学校
教諭 新川 靖

はじめに

本校は、文部科学省の委嘱事業「児童生徒の心に響く道徳教育推進事業—命を大切にす
る心をはぐくむ教育の推進に関する研究—」
の指定のもと、「総合单元的な道徳学習によつ
て感動と充実感のある道徳の授業を創れば、
命を大切にし、将来に夢を持つ子どもの育成
ができるであろう」という研究仮説を立て「ラ
イフ（命を尊ぶ）」「キャリア（職業観・就業
観）」をキーワードにした総合单元的な道徳
学習を実践している。

総合单元的な道徳学習の
構成の工夫

効果的な活動を仕組むために、目指す子ど
も像を決め、総合单元的な道徳学習（以下総
合単元）を四つの段階と学習後の児童の姿か
ら構成する。（だ円の構想図を作成したがこ
こでは省略）

- ①「ふれる」段階：学校生活や体験活動を通
して児童が道徳的価値にふれることを目的と
した段階である。「そういえばあのとき：」「こ
のよね：」と学習の過程で振り返ることがで
きる体験の蓄積を指導者が意識することで、
児童は次の気づく段階で道徳的価値とより自
然な形で出合うことができる。と考える。
- ②「気づく」段階：児童は道徳の時間の中で、
単元全体の中心となる道徳的価値と出合いそ

の重要性や必要性を感じたり再認識したりす
る。また、「ふれる段階」での体験を振り返
り総合単元の学習への見通しをもたせる。

- ③「深める」段階：日常指導、他の教科領域
では、気づく段階で出会った価値を児童に意
識させながら活動・振り返りをさせる。道徳
の時間では、これまで考えてきたことをより
深化させるような発問を行い道徳的価値を発
達段階に即し内面的自覚をさせる。（例、「な
ぜ、そうしたの？」「本当にそうかな？」等）
- ④「創る」段階：道徳の時間では「これから
自分はどうありたいのか」を考えるような展
開を仕組み道徳的実践力を身につけさせる。
体験活動や教科領域の活動では学んだことを
いかす場を提供し、自立的な道徳実践に結び
つくように振り返らせる。この段階で生まれ
てくる児童の意識が目指す子ども像につな
がるようにと考えている。

☆学習後の児童の姿：学習後現れてくるであ
ろう児童の姿を学校・地域家庭の二つの場
について予想し設定したものである。これはユ
ニット全体の評価や子どもの姿を見取って
いくための視点にもなっている。

5年生 ライフユニット
「命を輝かせよう」

5年生では、ライフについて、「命を輝か
せよう」というユニットを設定した。

・本ユニットで育てたい子ども像

表1 『命を輝かせよう』各段階のねらい

	各段階でのねらい
ふれる	作業や活動、体験を通して、楽しい・うれしい、悲しい・がんばろうなどという気持ちをもたせる。
気づく	生きていることのすばらしさ、命の尊さを感じさせ、命のつなごうの喜びに気付かせる。
深める	「命は多くの人々によって支えられている大切なものだ」ということについて考えさせる。
創る	大切な命を授かった自分自身はどうか、どう行動していきよくなるかを考える心身を育てる。
学習後	生命・命に対する感じ方が深まっていることを期待する。

このユニットの「深める」段階の取組みとして、道徳の時間に「決断 命の一滴」(コミック版 原作 NHKプロジェクトX制作班 作画・脚本 本そうちち 宙(おおぞら)出版)を題材とした授業を行った。この本では日本の骨髄バンクを立ち上げた女性が主人公とし

道徳の時間「命の一滴」

自他の命の大切さを感じ、よりよく生きていこうとする子ども

- ・期間 九月上旬～十月中旬
- ・中心項目 生命尊重
- ・関連項目 自然愛護 個性の伸長

※各段階におけるねらいは表1のとおりである。

て描かれている。

しかし、授業の中では他人の命を守ることの尊さを考えさせたいと考え、骨髄バンクによる最初の提供者となった男性を主人公として取り上げた。

- ・主題名 生命尊重 3-2
- ・本時のねらい

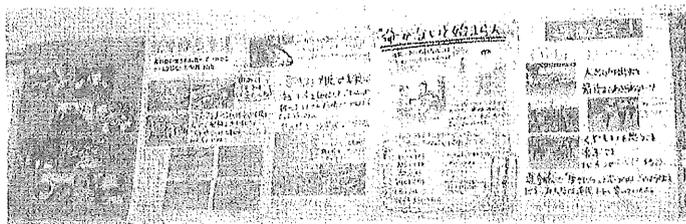
命の重みについて考え、自他の命を大切にしていこうとする心情を育てる。

■授業までの流れ

ふれる段階には、野外活動などを含めた夏休み全般と老人クラブの方に手伝ってもらいながら児童が手作りで行ってきている米作り等を設定した。体験活動や楽しい思い出、失敗経験などを次の段階で生かしたかったからである。気づく段階では、道徳の時間「命がないとはじまらない」で生きていることの尊さについて考えた。そして、深める段階では、道徳ノートを利用し、生きている実感、動物の命などについて考える活動を行い本時の授業を行った。

■本時の内容

〈導入〉「あなたが生きているなあと思うのはどんなときか」を聞いた。これまでの学習についての掲示を見たり、自由に発言させたりしてリラックスした雰囲気をつくりながら、ここまでの学習を想起させた。資料で死を扱うからこそ、今まで考えてきた「生きていることの喜び、尊さ」を一人一人の心に思い起



こさせなかった。

〈展開前半①〉前半では骨髄移植を受けたかと思っっている人々の心情や願いに共感させることをねらいとして資料の提示を行った。

まず、スライドショーを利用して「少女の命が消えていこうとしている」というシーンを提示した。そして、骨髄性白血病と骨髄移植という治療法について話をした。次に、骨髄の提供者を求めて次々と知り合いに声をかけていったが適合者が見つからずに少女は亡くなってしまったことも話して、資料の前半とした。

児童の中には、前半の資料を聞きながら悲痛な表情を浮かべているものがあった。中には涙をためているものもいた。少女の気持ちを問うと「元氣になりたい」「早く治りたい」という答えが返ってきた。導入で「自分たちが考える生の喜び」を振り返ったことが病の少女の心情への共感につながっていると感じた。また、本学級の児童にとって「死」を正面から取り上げた最初の道徳の時間であったことも、少女への共感を呼んだのではないかと考えている。

表2 本時の学習活動と主な発問 (◎主発問)

導入 (2分)
1 生きているなど思うときについて話をする
展開前半 (30分)
2 資料を聞いて話し合う
☆白血病について知り、骨髄バンクの意味と役割および移植に伴うリスクについて知る。(指導者がスライドショーを使って資料提示をする。)
○田中さんはどうして、骨髄の移植をするのをやめようと思っているのだろう。
◎このような気持ちがあるのになぜ田中さんは骨髄の移植をしようと決心したのだろう。(ワークシートに記入)
○自分が骨髄を移植した相手の橋本さんと初めて出会って握手したとき、田中さんはどんな気持ちだったのでしょうか。(ワークシートに記入)
展開後半 (10分)
3 登場人物への感想を交流する
○今日学習をして感じたことを振り返ってみましょう。(ワークシートに記入)
終末 (3分)
4 今日の話に題を付ける
○今日みんなが考えた田中さんのお話に題を付けるとしたらどんな題を付けますか。

〈展開前半②〉「この話は次へとつながっていきます。同じ病気に苦しむ人々がまだ世の中にはたくさんいるからです。」と述べて二つ目の話に入った。次は、少女の死をきっかけとしてできた骨髄バンクによる日本初の提供者の男性、田中さんの話である。

田中さんは提供者第一号と決まり移植の準備を始める。しかし、提供には仕事を休んだり、骨髄へ注射針を打つ際のリスクがあったりする。また、提供相手がだれだか知らされることもない。医者からは電話で自分の意思を伝えれば提供を中止することができると言われていたことを話した。

移植の日が迫ってきたときの「やはりやめ



尊さや大変さ、命の大切さについてより深く考えることができるかと考えたからである。そして、なぜ、やはり骨髄の提供をしようと決心したのかについて考えさせた。

ようか……」と悩む場面をスライドに取り上げ、なぜやめようかと迷っているのか考えさせた。田中さんが抱いたであろうリスクや恐怖感を考えさせることで命を守ることを

言ったことで、相手の人やその家族が安心したからいまさらやめるわけにはいかない。○相手の気持ちや今どういう気持ちになっているかと思うとやっとなげたくなる。

相手の生命を守ろうと決心した心情についてさまざまな意見が出された。発表の際には、友達の見解を聞いてどの意見が田中さんに近いかながら聞くようにさせ、後で友達の見解を聞いての発言を求め意見交流を深めた。原作では田中さんは「自分の息子がもしその立場であつたら……」という親としての考えから移植を決意するが、児童からは出てこなかった。しかし、見方・考え方を広げたいと考え、参観に来ていた先生に事前にお願ひし「自分は子どもがいるのだけれど……」と意見交流の最後に話してもらった。

この発問によって、児童から出された意見をいくつか挙げる。

- 相手の人が死んでしまいうから。
- 怖いけど人の役に立てるから。
- もし断わつたら一生後悔するから。
- 救えるのは自分しかないのだから。
- 自分が一度提供すると

八年後に田中さんが相手の橋本さんと偶然再会したときの気持ちを考えさせた。田中さんと、命を救ってもらったことに感謝し泣いて握手を求め橋本さんが写ったシーンを取り上げた。人の命を救うことができた実感する田中さんの喜びを考えさせたかったからである。「相手の方が元気になってよかった」「あのとき骨髄移植をやめなくてよかった」という意見が大半を占めた。児童はしっかりと人の命を救った田中さんの喜びを想像していた。展開前半の最後に現在の骨髄バンクに二十万

人を超える人々が登録していることを伝えた。多くの人たちが人の命を支えようとしていることを伝えたかったからである。

〔展開後半〕振り返りでは常時「主人公へまなざしを向けよう」と投げかけ、「もし自分だったら」「ここはまねをしてみたい。」などの視点をもって書くように指導している。

以下、ワークシートに書かれた感想を抜粋して紹介する。

○わたしも田中さんのように大人になったら人の役に立てたらいいなあと思いました。

○田中さんは提供してたつた一つしかない命を救ったからすごいなと思いました。

○わたしも提供してあげたいと思いました。

○命が大変なことになっているときに一つの命を守った人がいるからすごいと思います。みんな協力して生きていくのがいいんだと思いました。

○田中さんはすごいなと思いました。はじめは骨髄の移植をするのが怖かったのに、それを乗り越えて自分で決意して移植をしたからです。

○何とか助けたいと思ったんだと思います。命が救えてよかったですと思います。わたしだったら多分引き受けられなかったと思います。

〔終末〕終末では、今回の資料に題を付けさ

せた。この活動により児童が一時間の活動全体を振り返り、ねらいにどれだけ迫れたかを指導者側が見取れると考えたからである。ほとんどの児童は「命を救った」という言葉を含む題を付けていた。それは、多くの児童にとつて、命を守ろうとした田中さんの行為がいちばん心に残っているからだと考ええる。

■授業を振り返って

五年生の児童には難しい題材と予想していたが、児童は内容をとらえよく考えていた。それは、総合単元の中で命について考えることを継続してきたことにより児童の命に対する意識が高まっていたからと考える。

主人公の行動に対して「大人になり機会があればやってみよう」と共感している意見もあったが、「とても勇気がいるのでわたしならできないかもしれない」と考えた児童もいた。どちらの意見も「人の命を守ることの尊さ」についてしっかりと感じ取ったことの表れだと考えている。

再会の場面では実際の映像などの利用ができればよかった。登場人物が実際に登場することで命を救うことのすばらしさをより感じさせることができたはずだと考えている。

授業後の流れ

この学習で児童は「人々によって支えられている」という見方を学び、一つしかない命の大切さについての認識をより深めることが

できた。

そこで次の創る段階では「輝く」をキーワードとし、その大切な命を、輝かせていくにはどうしたらよいか考えさせた。その後、道徳ノートに自分ならどうするのがよいか考えを書いていた。最後にこの単元名「命を輝かせよう」を紹介しまとめとした。

この単元としての学習はここで終わりとなったが、その後すぐに次の「力一杯がんばろう！」に取り組んでいった。その中でもこの命の大切さを始まりとした「輝く」という言葉が児童から出てきていた。これは指導内容が少しずつ児童の心に響いていたからだだと考えている。

まとめ

総合単元的な道徳学習に取り組んでいくことで、道徳の時間の深まりとそこからの広がりにより大きいことを再確認した。今回のユニットでは、命について短い期間に集中的に考えたが、もつとゆつたりと時間をかけて大きな流れの中ではぐくんでもよかったのではないかと考えている。来年度に向けて再検討していきたい。

また、児童一人一人の変容の様子を記録にとりながら客観的に見取っていくことも今後の課題とし、学校全体で取り組んでいるところである。